

平成 30 年度 勝山高校生 市長と語る会 議事録

- 【目 的】 ・勝山市内の高校生と市長とが、世代や立場を越えて語り合う場を設ける。
・次代を担う高校生と市長とが語り合うことを通して、ふるさとに誇りを持ち、未来に目を向けて学び続ける人材の育成を図る。
- 【日 時】 平成 30 年 8 月 1 日（水） 13：00～14：30
- 【場 所】 勝山市役所 3 階 第 1 会議室
- 【参加者】 勝山高等学校 第 3 学年生徒 10 名、引率教諭
- 【テーマ】 ふるさと勝山創生

<市長>

若い人たち、特に高校生や中学生という若い人たちと話をする機会をあまり作ってこなかったが、この年になると、次の時代の人たちをいかに作っていくかということが一番大事なことだと思い始めてきている。みなさんは次の時代の勝山市、または日本、ひょっとしたら世界を背負っていく、そういう存在になっていく。ぜひともいろんな話をしてもらい、私もアドバイスや助言できることがあればしたいと思うし、これからの勝山市をもっといい街にしていくためのアイデアをもらいたいと思う。難しいことは抜きにして、みなさんのいつも思っていること、今やりたいこと、将来に向かってどうしたいか、大人になったら何をしたいか、そういったことも話の中でしてほしい。固くならないで、ふだんお父さん方とか先生方に話しているつもりで話をしてほしい。

<司会>

高校生の皆さんから自己紹介をお願いしたい。（勝山高校関係者が自己紹介）
本日のテーマは、「ふるさと勝山創生」。最初に高校生のみなさんから、自分の考えを語ってもらい、そののち、市長より、ご高評、ご助言などをたくさんいただきたい。

<A さん>

勝山は少子高齢化が進んでいる。しかし、恐竜博物館やスキージャム勝山など、若者が楽しめる観光地がたくさんあり、最近では恐竜博物館の近くにディノパークやジオターミナル、勝山高校のすぐそばにはジオアリーナが建てられた。このような、今勝山を活性化させていると思われる事業を調べてみたいと思った。西日本最大級を誇るスキージャム勝山は、冬になると日本各地から観光客が来ており、外国人も多く見られる。雪質もよく、ワンシーズンに何度も訪れる人もいる。勝山の事業の一番の目玉といえる。恐竜博物館は、長期休暇に道路に車の長い列が必ず見られるほどにぎわっている。子どもから大人までみんなが楽しめる観光地である。恐竜博物館の外にディノパークが開設されたことによって、一度博物館に来たことがある人もまた興味がわき、さらに勝山に人を呼び込む手助けになる。今年行

われる国体に向けて、ジオアリーナが建てられ、近くにそのための駐車場もでき、多くの人を迎え入れる準備が仕上がっている。ゆめお一れ勝山は、勝山の織物の歴史を知ることができ、様々な体験も行えて、勝山に来たら一度は立ち寄りた建物である。

勝山は観光地がたくさんあり、とてもいい所なのに対して、現在人口が減少傾向に陥っている。それは移住してくる人が少ないからだと思う。

そこで私が提案するのは、すでに建てられている民家をリフォームし、古民家風のホテルを建てることである。このホテルを建てることで、安く勝山に泊ることができるし、自然に囲まれた暮らしを簡単にできる。このホテルに泊まって、勝山のよさを実感し、また勝山を訪れたい、勝山に住みたいという人が増えたらいいなと思う。

<Bさん>

(市長：映画に出たんだってね?) はい。(市長：メモ見たら書いてあったから。はい、どうぞ。)

ぼくは、予算案について調べた。気になったのは、年末の道路の整備である。なぜ気になったかという、サンブラの前からの勝山街道をよく工事をしているが、高校生の目から見ると、十分きれいだと思うからである。なぜ、年末工事を入れるのかわからない。もし、その工事をしなくてもよいのであれば、その分の予算で、観光客の誘致に対する対応や新しい交通システムの導入にも役立つと思う。どのようなことを考えて工事をしているのか聞かせてほしい。東京の予算を調べると、浮いた分のお金で何か導入するという予算の使い道をしていたので、今回の提案をさせてもらった。

<市長>

最初のAさんの提案について。勝山は観光地がたくさんあり魅力的だけど、その観光客のために古民家を再生して民泊できるようにしてはどうかということだね。その根底には人口減少というのがあって、もっと勝山のよさを知って、勝山に住んでもらいたいという意味もあるね。

勝山市は面積は大きいけど人口規模は小さく、それでも、これだけ観光地があって、来た人に喜んでもらえるような施設がある町はそんなにない。市全部がジオパークに指定されているし、自然、歴史、左義長などの伝統・文化に恵まれ、たいへんすばらしいところである。スキージャム勝山のハーベストホテルとニューホテルの2つと宿泊施設があるが、宿泊してもらうことで、勝山を楽しんでもらう、もっとよく知ってもらうことが大切。観光収入ということであれば、1日で帰ってしまうよりも2倍、3倍の収益がある。観光を産業にしようとしたとき、宿泊客を多くするという事は大事な事なので、市でも、今提案があったことについて十分考えている。古民家の再生は市が独自にやるものでなくて、持ち主さんにやっていただかないと、どんどん市の予算を食っていくし、だからといって勝山市が何もしないということではない。ゆめお一れ勝山は古い工場を再生した。全部で4億円。半分

は市から出している。花月楼も同じ。古くからの料亭で、建築的に天井が傘天井で、第3セクターが資金を出し再生した。全てを市の予算の中でやろうとすると財政の負担になる。町の人たちがやってくれることを期待した。市は市民がやりたいと思うようなインセンティブを示す。補助金を出し、観光客を呼ぶような支援を市がするという体制を考えていきたい。

Bさんの提案について。具体的な予算の使い方を聞いているけど、どこの道かな？(Bさん：サンプラから野辺スポーツの方。年末よく工事しているイメージがある。)

歩道の工事？舗装をやり直すとか？その道路は、県道である。だから市の予算ではなくて県の予算でやっている。どちらにしても市民の要請がないとやらないし、道路を管理する課があって、その課の人たちが見てどうしてもやらなければならないというときにやる。お金が余っているからやるということはない。必ず整合性があるやっている。一度調べてみる。

東京都は税が豊かだから、市民の要請に応じていこうとするが、勝山は財政が豊かではない。だから、浮いたお金というのはない。あるとすれば、発注のとき、入札で先に見ていた価格より安かったときは、差額が出る。その差額でよりよいものを作ることになる。

<Cさん>

勝山の英語教育について調べた。ぼくは、将来教育系の進路を希望している。最近英語教育に注目をしている。英語教育が小学校で必修科目になることを知ったので、勝山市はどんな取り組みをしているのか調べてみた。平成26年度の文部科学省の英語教育教科拠点事業の指定を北信越で唯一受け、小中高が連携して豊かなコミュニケーション能力の育成を目指してきた。具体的には、僕らが受けているGTECを無料で受けられることや、例えば中学生のとき、2年生のときは金沢で、3年生のときは東京で、英語を使って勝山のことを外国の人に紹介した経験がその活動だと思う。ほかにもALTを積極的にとり入り入れるなど、英語にすごく力を入れている。小学生のような小さいときに英語を学ぶと、高校生になって生きてくると思う。小学校の教員でもっと英語のできる人を採用することを提案する。

<市長>

英語でコミュニケーションするというのは体験してるんだね。東京で？(Cさん：東京と金沢です。)通じるとうれしいでしょう？(Cさん：はい。)

発表されたように、北信越でただ一つ、先進的に英語に取り組むという体制が平成26年度から始まって、今も続いている。画期的だったのは、小学校3年生からはじめたこと。わたしがいいと思うのは、その頃の目指していた英語とは、中学、高校のような文法とか難しいことではない。英語で表現ができるということ遊びや生活の中に刷り込んでいくことは大事なことだと思う。中学、高校になると英語は難しくなり、嫌になってしまう子もいる。せっかくなじんできた英語が、逆にもう嫌だとならないような教育的配慮をしていきたい。そのために、常に外国人と話をしながら、自分の話していることが通じるし相手のこともわかるということを感じてほしい。そんな難しいことじゃない。欧米人の3歳4歳の小さな子

がしゃべっている。英語の対話ということから言えば、日常的なコミュニケーションツールとして使えるようにしたい。

勝山市ではハワイへ交流するために行っている。応募してほしい。今年はまだ終わったかな？（教育長：3年生ですから。）それは残念だったね。これから機会のある人は、ぜひとも手を挙げよう。英語教育は重要なものだし、これから国際化ということということになると、大事なツールになるので、市としても、教育効果を上げるようにしていく。

<教育長>

小学校に英語のできる先生を配置してはどうかということについて。小学校にはいろんな免許を持った先生方がたくさんいる。担任をして、いろんな教科を教え、そして英語も教える。英語にだけ特化してたくさん先生をとというのはなかなか難しい。たった一人でいろんな教科を教えて、そして、英語もということなので、英語だけできてもだめ。だが、福井県は他の県よりも英語教育を早くやっており、全国でも進んでいる。そのトップが勝山である。だから、小学校には英語のできる先生を何人かは配置している。今まではその意識はなかったが、去年あたりから基本的にたくさん小学校に配置している。

勝山は、平成26年から小学校で3年生から英語の教育を始めた。国から指定を受けた。そのころは君たちは、中2。指定された実感はなかったかもしれない。指定したのは、小学校だけでない。はじめは、成器西小、村岡小、野向小、勝山中部中学校、勝山高校のピラミッド型だった。この小中高の取り組みを全国に先駆けてやることになった。それが18地域あった。この事業をお受けると返事をした後、市長に速やかに相談し、勝山中部中学校校区と勝山高校のピラミッド型だけではなく、やるのなら勝山全体でやってほしいと提案した。勝山南部中、勝山北部中から入学した生徒と勝山中部中から入学した生徒に格差があったら、具合が悪い。勝山すべての学校をカバーしてほしいということで、国に指定された学区以外の学区については、市長の裁量で指導者や教材の予算をつけてもらった。

その頃の小学校3年生は、今は中1。みなさんが中1の頃よりは会話力が高くなっているはずである。当然、勝高も今まで以上にレベルの高い英語を進めていただく。そうすることによって、勝山から輩出する子が、英会話力やコミュニケーション量をしっかり身につける。こういった姿から、勝山市外から、勝山の学校へ行きたい、そういう人が出てくるようにがんばれと市長から発破をかけられている。移住の話ではないが、それくらいアピール度を持って、英語教育を進めるように市長から指示を受けている。福井へ行くのとは逆方向で、勝山へ行けば英語力があがる、英語ができるようになるためには勝山高校へ入ろうとなってほしい。そういう高い目標でがんばってほしい。

<Dさん>

僕のテーマは、九頭竜川、勝山の鮎ブランドの発信と発展である。動機は、ここ勝山は都会と比べ、何が勝っているかといえば、やはり、自然が豊かなこと。勝山は鮎釣りの全国大

会の開催地でもあり、僕たちがもらった資料にもあるように、鮎ブランドも受賞している。

創生案として、県内外の鮎釣り客に、勝山の宿泊施設や料理店に足を運んでもらい、勝山の経済を発展させて行くこと、そして、勝山の鮎ブランドを発展させるために勝山市の予算を漁業組合の予算のほうに回してもらおうこと、さらに、勝山市の街中に恐竜の看板とかモニュメントが多いが、恐竜だけでなく鮎の看板や旗など宣伝するようなモニュメントなどを置くことを提案する。県内外からくるお客様に勝山市内で使えるいろいろな割引券を配布したりして、なるべく多くのお客さんに宿泊施設や料理店などに足を運んでもらいたいというのが僕の思いである。

<市長>

D君は、鮎を釣ったことあるか？(Dさん:はい。もう、小学校5年生からやっています。)お父さんが好きなのか？(いえ、自分で。)自分でやってるの？へえ〜！鮎食べると、おいしい？(はい。絶品です。)

勝山にいる人で、そういう人は非常にまれである。みんなは鮎を食べたことがあるか？勝山産の鮎を食べようと思っても、なかなか食べられない。魚屋に買いに行っても地の鮎は売ってないとか、高すぎて買えない。勝山の鮎はものすごくおいしい。勝山以外の人たちの評価も高い。ぜひとも、今の提案については具体化したい。

現に取り組んでおり、九頭竜川勝山鮎というブランドを申請して、勝山しか使えないようなブランドを勝山の漁協が取得した。勝山の鮎を全面的にもっとアピールしたいという要望を漁業組合は持っていて、市は支援している。

今度できる道の駅は、九頭竜川のほとりにある。鮎を売りものにした道の駅にしたい。釣り客も集まりやすいし、子どもたちに鮎のつかみ取りができるようなしつらえもつくり、イベント化したい。

漁協への市の補助について。鮎は自然に生息するものではなくて、小さい鮎を産地から買ってきて、それを放流することによって、九頭竜川に鮎が住む。それを釣り上げるという仕組みになる。鮎の稚魚というのが結構高い。漁業組合の収益だけでは買えないので、これを年間100万円、支援している。勝山の鮎については、今後も力を入れていく。

<Eさん>

わたしは今回勝山市創生案として、恐竜博物館をもっと開発して、テーマパークのような楽しい場所にしたい。小さい頃、恐竜博物館に何度か行ったことがあるが、今は全く行かなくなりました。テーマパークのおしゃれな乗り物とかがあると、また行きたくなると思う。毎年、連休になるとたくさんの観光客が恐竜博物館を訪れているため、そういった人たちをもっと満足させて楽しんでもらうことで、よりリピーターを増やすことができるのではないかと思う。

しかし、建設費用がやはり高い。例えば、勝山市の平成28年の観光客数が日帰り客が1

300万人ほど、宿泊客が300万人、合計で1600万人ぐらいが勝山を出入りしている。この観光客全員が恐竜博物館の新しいアトラクションを目当てに恐竜博物館を訪れたとして、例えば、今駐車料金はただだが、30円とかでも入園料でいれたりすると、5億ぐらい集めることができる。(市長：おお、すごいね。) それぐらいあれば、簡単なアトラクションを立てることは可能である。その後の運営費用も賄える。利点は、やはり、リピーターがもっと増えることや若者も行くこと、さらにアトラクションの従業員とか清掃員とかもっと雇用を増やすことで、地元の高齢者、失業者を助けることができると思う。

<市長>

よく考えてるね。数値も計算して。(Eさん：でも、ほんとに理想なんですけど、ただの…) やりたいことはいっぱいあるが、市がやるということで制約がある。

東京ディズニーランドはテーマパークだから楽しいし、いろんなお客さんの要望にこたえた、もしくは、お客さんの要望を先取りしたような施設になっている。あれは、浦安市という市にあるが、決して市がやっているのではなく、完全に民間会社がやっている。東京ディズニーランドは、大きな運営会社がやっていて、市の予算は一切入っていない。

今提案したことをやろうするときに難しいのは、いろんな事業展開ということが、もうけるため、もしくは、人に来ていただくのはいいんだけど、収益を上げなきゃならないということになると、市ではできない。その解決のためには、恐竜博物館が今やっていることを民間事業者が「これは素晴らしい。自分たちが施設なりエンターテインメント性を発揮したような施設を作れば、お客さんが来て事業収益があがってその会社が儲かる」という提案をして、用地はまだたくさんあるから、そこで事業展開してもらえるのが一番の近道である。県もそういったことについてはやることはできない。ただ、県はいわゆる第2恐竜博物館というもっとおもしろみのある博物館を作ろうという構想は持っている。市はそれを勝山市へ作ってほしいという強い要望を出しているし、県もそのような方向性で今考えている。県議会との間でまだ合意はされていないという状況である。

ただし、極端に言えば東京ディズニーランドのようにたくさんのお客さんに来てもらって、それで、事業収益がどんどん上がるようなそういうしくみにはできない。だから、提案に近づけるためには、あの恐竜博物館と勝山市のすばらしい自然というのが、人に来てもらえるような素晴らしいところであるということ、市も県も事業者にアピールし、事業者に勝山へ来てもらって、例えば、東京ディズニーランドみたいな総合的なリゾートを作ってもらおうというのが一番近道だと思う。

駐車料金は取りたいが、なかなか取れない。現実的な話になるが、恐竜博物館のある場所に恐竜の森という名前をつけているが、正式には、長尾山恐竜公園。この公園自体は、全て勝山市のものである。西暦2000年、平成12年に県立恐竜博物館を誘致したとき、県は勝山市につくると最初から考えていたわけではなくて福井市でもいいし他でもと考えていたのを、「恐竜発掘地は勝山市だから、絶対勝山市につくってほしい」と当時の今井市長さ

んが一生懸命要請して、県が作ることを決定した。

民間事業者が「ここで、こんな事業をやりたい。ぜひやらしてください。」ということで、ディノパークを作った。収益は会社のための収益だが、その一部を勝山市がもらっている。先程の提案のような非常にいい形で施設ができた。恐竜博物館とその周辺の魅力をどんどん高めていき、例えば、東京ディズニーランドをやっているような会社がこの勝山のあの場所で何かすれば、もっとも人が来るし、自分たちももうけられるということになれば、提案を実現できる可能性が強いということになる。恐竜博物館とその周辺の魅力をどんどん高めていきたい。

<Fさん>

わたしは、空家と空き地の再利用について考えた。テーマ設定の動機は、勝山に限らず、奥越やその他の過疎地域においては、空き家や空き地が増えていると感じており、空き家や空き地について考えられたら、他の地域でも生きてくるのではないかなと考えたからである。

現在、勝山は長期間放置され整備不全な状態の空き家などが倒壊・火災発生の恐れのあるため、近隣住民が不安を訴えるというケースがあるという情報があった。他の地域では、田舎に住居する人の発掘を進めるひとつのツールとして、移住体験用住宅というのがある。試験的に短期間でその地域に暮らし、判断の材料にしてもらおうというものである。そのため民泊施設として、実際は空き家を活用、または安価に貸し出す家が増えているそう。空き地の利用方法で一番多いのは、貸出駐車場が多らしい。初期投資費用を最小限に抑えることができる方法で、とてもいいと思った。

そこで、わたしがそれらを参考にして考えたのは、まず空き家は勝山の特産品を売ったり、道の駅のような場所にするといいと思う。空き地は、駐車場とか、近くの公民館とかのお祭り会場とかにするといいと思う。

<市長>

空き家については、Aさんからも話があった。確かに、勝山市だけじゃなくて、日本中の町に空き家があり、大きな問題である。勝山市には何件くらい空き家があると思うか？

(Fさん：10件くらいあると思う。) 500件ある。みなさんの家の周りにも必ずある。それはなぜかという、若い人たちが、お父さん、お母さんたちと同居しないという風潮が強く、自分が生まれた家に住まない、違う家に住むようになる。お父さん、お母さんはどんどん年をとっていつかは亡くなる。亡くなってもだれも家に入らないというようなことが一つのパターンである。同居というのもひとつの重要なことである。考え方によって難しいという人もいるかもしれないが、古い民家のよさというのも知ってもらい、もしくは、改造やリフォームなどして住むのが一番だと思う。それでも空き家はどんどん増えていくと思う。そういうときに、今の提案のようなお試し移住というようなことも考えている。他から

来た人たちが勝山市に一度住んでみようかというときに、短期間移住する機会を設けられる空き家対策の居住できる家を作る。これはすでに勝山市に2軒ある。1軒は元町2丁目、もう1軒は平泉寺の「との蔵」という新しい施設があって、そこの2階もお試し居住の場所になっている。そのような施設で1週間ほど住んでもらい、勝山市の実態を分かって、自分が住みたいなと感じた人たちには住んでもらう仕組みはある。もう2軒か3軒作ってもいいかなと思っている。どんどん勝山市に馴染む機会を作るということも大事である。

駐車場も本町あたりにだいぶ増えてきた。それは、市が駐車場を作ってほしいというわけではなく、土地に空き家があるとどんどん古くなり非常に危険な状況になる前に壊して、空き地に駐車場をとという人がいる。このような民間の流れも駐車場が必要なところはよいが、駐車場だらけになってしまうと困る。市の都市計画の観点から、そういった土地を市で買い、市の町作りの中で生かしていくという方法もある。都会ほど必要でないかもしれないが、あるべきところにはあった方がいいので、それも今後考えていく。

さらに聞きたいことがあったら、…どうですか？（Fさん：ないです。）

<Gさん>

ぼくの場合は、商店街の活性化である。僕の考えでは、恐竜博物館の増築とかは別として、今から勝山に新しくテーマパークを作るとかをすると、まちがいなく自然を削ることになるので、その考えはない。今勝山市にあるものを増築したりすると、予算的にもいいのではないかと考えている。また、人口減少を防ぐために人を呼び込むという考えがあるが、その前に、勝山市は高齢者がまちがいなく多いが、若者とお年寄りとのコミュニケーションの場がない。そこで、若者と高齢者が共存できる町を作ることを中心に、商店街の活性化というのを挙げさせてもらった。

まず、高齢者の目線からみると、今の勝山市の商店街はほとんどシャッター街になっている。このシャッター街を新たに高齢者にとって居心地のいい場所にする。レトロな雰囲気を出すお店を作ったり、高齢者が若いころ仕事をしてきた時代ぐらいの雰囲気のある店を作ることで、そこに高齢者に集まってもらう。若者だったら、シャッター街のシャッターに絵を書いてシャッターアートをつくって、それをSNSで投稿する。全国的、世界的に広まり、若者と高齢者との共存を図ることが段階的に知られていくうちに、他の県から、「勝山にそういうところがあるんだ」というふうになり、他の県から来てくれる観光客が増えると思う。商店街の活性化というのが、高齢者にとってもぼくたち若者にとっても一番いい案ではないかと考える。

<市長>

今からほんとに高齢者が増えていく。30ほど前は、勝山市で生まれる子どもは200人から300人、今は1年間に150人あればいい方で、去年は130人しか生まれなかった。亡くなる人はその3倍ぐらい。昭和22年から25年の間に生まれた人は、団塊の世代と呼

ばれていて、全国で本当にたくさんの人が生まれており、勝山市も同じ傾向である。その人たちが2025年には75歳以上になる。これは言い方がよくないかもしれないけれど、多くの人が死ぬ時代が来る。後30年後ぐらいで、人口減少が起きる。日本はその傾向には突入している。中国はもっとひどいことになるらしい。それは一人っ子政策とって、二人以上生んだら法律で罰せられるっていう時代があったからである。

今の提案は、若者と高齢者が共存する、そして、高齢者たちも楽しいような街にするという提案である。いつもそれは思っているが、なかなか具体的な策がない。今の提案で言うと、例えば、レトロな街を作るという提案は、市が作るということはなかなか難しいから、インセンティブを市が作るということになる。ビジョンを市民に示し、こういうことをやってもらえれば市は補助金を出しますという形で、町のハードを整備するという方法がある。

本町通りの商店街は、昔、みなさんが生まれる前ぐらいはもっともっと盛んで、逆にいうと、あそこしか商店街はなかった時代があった。その時代から車の社会になって、郊外にコンビニができ、スーパーができ、ホームセンターができることによって、商店街が拡散してしまった。一か所に来なくても、車があるからどこでも行くことができた。したがって、昔みたいに1か所に商店街があるという時代はなくなってしまった。しかし、今もずっと本町という街がちやんと残っている。だけど、なかなか人が来てくれない。人が来てくれないとものが売れない。ものが売れないと仕入れもできないし店もきれいにできないという悪循環がずっと続いていた。わたしが市長になってから、これではいけないと思って、街を一度きれいにしようということで、本町通りの舗装をやり直して、真ん中に通っている排水、水が通る川もきれいにした。さらには町並み景観の整備として、国の補助金もあり、昔のような建物に改築してくれれば補助金を出すということで、レトロとまではいかないにしろ、今現在、町屋風の建物がずっと並んでいる。そういうふうに変換することに補助金を出したので、結構ちぐはぐな形で自分たちの考えだけでできていたお店が、だんだん、昭和の初期の時代の街並みになってきた。こういうことは街の雰囲気を作るうえでは非常に大切なことで、今は人は来ていないけれども、例えば、歳の市とか左義長のような伝統行事と街の風景が非常に一致したようないい雰囲気が保てる。今後もそれをうまくすれば、さらにいい方向に向くんじゃないかと思う。

シャッターにペインティングするというのも一つのアイデアである。若い人の考えだと思うから、それはそれなりにまた本町通りのどこかの一区画でやるのは可能かもしれない。

今提案のあったSNSで発信するようなおもしろい街だということに来てくれる人が多くなるといいと思う。提案のひとつとして受け取って、若い人たちも高齢者も興味があるような街にしたい。

具体的に今考えているのは、本町通り、後町通りに人が来てもらえるようなお店をやっばり復活させたいということ。例えば、夜は料亭とか料理屋さんとかお酒を飲むところはにぎわうが、昼間の食事があまりできない。恐竜博物館に来たお客様が街の中でお昼を食べられるようなしつらえをしてくれるお店には補助金を出すということで、相当改築され、昼の食

事を提供してくれる店ができた。15, 6軒の店が改築し、お昼を食べにくるお客さんが多くなったという話も聞く。さらにもっと加速化していきたい。新たに街中で事業展開してくれる人には補助金を出している。例えば、福の依さんという居酒屋さんがあって、あれも今から7, 8年前にオープンした。若い人が勝山でこういう店をしたいということで勝山市が補助金を出して作った店である。これからも話があってできつつある店があるから、増やしていきたい。

非常に勇気のあることだと思う。だんだん人が来ないようなところだけでも、自分たちがやればまた人が来てくれるという、チャレンジ性とやる気を持ってやってくれている。千代鶴さんも食べ物の店を作ってくれた。意欲ある人が出てきている。そういう人たちにも支援して、本町通りという昔ならではの商店街だけれども、現代的なアレンジをした形で、かえってその方がおもしろいといったようなお店づくりとか街づくりを計画していきたい。

<Hさん>

わたしは、福井県全体で繊維産業が栄えていたということを知っていたが、勝山の繊維産業が恐竜よりも見劣っているかなと思っている。そこで、繊維産業がどのようにしたら発展するかについて調べた。また、わたしの父親が繊維にかかわる会社に勤めていて、たまに工場に連れて行ってもらったりとかして興味があることも調べた理由の一つである。

勝山には日特さんとか繊維に関わる企業さんがあって、海外に進出している。服だけじゃなくてスクリーンの繊維とか幅広いところにも着手しているので、そういうところは発信していくべきだと思う。

ゆめおーれ勝山には様々な体験ができる場所であるが、体験などをせずに、昔の繊維工場にあった機械を見るだけとか、中にあるカフェを通っただけで終わってしまうと、ほんとに短い時間で終わってしまう。広場がせっかくあるので、そこでいろんなイベントを行ったりとか、左義長のときに各地区ごとにスタンプラリーでスタンプがおいてあったりするとよいのではないかと思う。わたしも上郡区で毎年櫓に上っているが、よくスタンプラリーをするためにお客さんが来てくれる。櫓のある本町通りからちょっと距離があるかもしれないが、ゆめおーれにも繊維産業を知ってもらうためにスタンプを設置して、左義長目的で来て下さった観光客の人にゆめおーれを知ってもらうのがいいと思う。

また、恐竜博物館に来て下さった観光客の人にもゆめおーれについて知ってもらうために、ゆめおーれで販売しているような繭玉クラフトの商品とかコースターとか絹石鹸とかを、難しいかもしれないが、恐竜博物館のお土産売り場でいっしょに販売してもらってもよいと思う。

さらに、恐竜博物館へ行くための観光客用のシャトルバスがあるが、恐竜博物館といっしょにゆめおーれをセットにしてもらうと、いっしょに勝山を知ってもらうことができるのではないかと思う。

<市長>

よく考えてるね。(Hさん：ありがとうございます。)

まず繊維について。確かに勝山市の発展は繊維が支えてきたと言ってもいい。お父さんが繊維会社に行っておられたというように、家族のみなさんをさかのぼると、何らかの形で繊維に関係のある人が多い。繊維産業というのは大事な産業であったし、これからもそういうふう位置づけていと思う。繊維産業の発展には、いろいろ難しいことがある。まずひとつは、衣服を作る織物産業というのは、どんどん海外へシフトしている。中国とか東南アジアが主力の産地になってしまっている。決して勝山市とか日本でできないわけではないが、日本の場合はそういう国から見れば労働者の賃金が非常に高くなっている。コストが高くなるから、製品も高くなってくる。その高い製品では、服を作るアパレル会社を買ってくれない。アパレル会社は東南アジアなどの安い国へ発注してそこから仕入れる。だから、従来の服を生産するための織物産業は、勝山に限らず日本ではなかなか難しくなっているのが現状である。

それを打開するために、今衣料だけでなく、スクリーン、それも非常に細かいメッシュスクリーン、印刷用のメッシュ、もっと高度になると、メディカル、医療のための繊維、人体の中に人間の組織の代わりに植え込むようなそういう繊維、それとか、自動車産業でいうと、非常に精密な部分のフィルター、そういう高度な素材を作る繊維産業に特化して、活路を見出してきつつある。日特さんはそういう点では非常に進んだ技術を持っていて、繊維の会社の中でも非常に収益性が高い会社であり、どんどん伸びている。今勝山に残っている、例えば、松文さんとかケイテーさんとかも、必ず一分野としては高度な繊維を作る部門がある。

そういう歴史がわかるのがゆめおーれ勝山である。もともと明治37年にできた古い工場、建てられてから、もう100年以上建っていて、本来は潰して駐車場とかにしようというような案もあった。しかし、繊維の歴史を語れるものとして改築し、その中に歴史がわかるような機械やストーリーを展示をして、博物館として残していくことにした。勝山の歴史を語る上でも重要なことであり、これからも誇りにしていきたいということで、非常にいい形で残っていると思う。

恐竜博物館とセットにして売り出したらいいなという提案については、わたしもそういうふう考えている。県立博物館が勝山市のものならばすぐにやる。しかし、なかなか具体的には進んでいないのは、県にお願いをして、県と一体的にやらなければいけないからであり、今のところうまくいってない部分があるので、時間がもうちょっとかかる。勝山市の施設の中では、いろんな連携をしている。ゆめおーれを軸に、4館連携事業ということで、ゆめおーれとまほろばと勝山城博物館と越前大仏。例えば平泉寺のまほろばや勝山城博物館とかは連携しながら紹介したり、ゆめおーれは無料、勝山城博物館は有料だけれども割引券が出るとか、そういうシステムを作っている。提案があったように、このような連携を恐竜博物館とも話し合いの中でやっていきたい。

スタンプラリー。これはいいアイデアだ。勝山へ来てもらう人たちは、まずは恐竜博物館へ来るだろうから、恐竜博物館との連携を県と進めていきたい。

<Iさん>

わたしは勝山市の防災について調べた。日本全国では近年、異常気象からか災害が多く発生している。災害大国日本では、防災というのが生活と直結している。勝山市は地盤が固いとか結構防災に強い町だと思う。そこで調べたことは、しばらく勝山市では災害とかがあまり起きてないため、「人々の防災意識はどうか」「勝山市の防災対策も規模に見合った防災対策や計画なのか」を調べ、見直すとよいと思った。

勝山市の指定されている避難所も何か所か行ってみたが、備蓄が公園になかった。いざ災害が起きたときには、人々は復興するまでや支援が来るまでの間、不安があると思った。市で指定されているところには防災倉庫に備蓄をしっかりと整えて、人々が安心して災害が起きた後も過ごせるようにするべきだと思った。最近あった災害で、雪が結構多くあった。自分の家も水の制限がかかって、水がないことに悩まされた。(市長：ああ、水道水のね) そうです。災害になると、水というのが結構大事になると感じた。復興するにも水が必要になってくるので、特に水の備蓄は大事だと思う。

<市長>

各地で災害が起きてる。西日本の雨はすごかった。今までないような被害が起きている。異常気象で今回の台風12号なんていうのは今までとは逆コース走っていて、あれほどの気象状況がこれからも起きる可能性はあると思う。だから、防災対策はどれだけやっても十分とはいえないという時代が来たのではないかと思う。

勝山市の防災対策は大丈夫かという提案だが、厳しいことを言えば、まだまだやらなければいけないことがいっぱいある。ただ、必要最低限、普通の災害に備える体制はできてることはできてる。例えば、ジオアリーナが新しくできた。あそこが勝山市の総合防災の基地であり、そこにいろんなものが備蓄されている。災害が起きたときはあそこから持って行ったり、大きな災害のときには基地として機能するようになっている。ただ、あれだけの大きな施設で、そこに避難してもらうくらい大きな災害というのはそう何度も起きるとは限らない。今、勝山市はそれぞれの地域に公民館があり、さらにはその周りにコミュニティーセンターや地区の集会所がある。一時避難所として避難する事態の地域を指定したときには、その人たちにそこへ行ってもらうという体制をとっている。そのための防災訓練も1年間に必ず1回はやっている。それも各地域へ出かけて行って、毎年地域を変えてやっている。

意識を高めていくことが必要であるが、実際に災害にあってみないと本気にならないということもある。危機感を高めるために住民の意識を高めるような工夫もしているハザードマップというのが日本全国にある。勝山市も作っているが、みなさんは見たことがあるかな？(高校生：ほとんどが手を挙げる。) あ、そう！それは意識が高い。勝山市は

250km²ある。山のふもとにある集落とか、普段は大丈夫なんだけれど、豪雨が来るとがけ崩れがおきそうなところ、ある一定以上の雨が降ると危ない場所をプロットしたのがある。その地域の人たちには説明会を開き、雨がひどいときには避難するように指導もしている。これからも、それはもっと丹念にやっけていき、住んでいる人たち状況にあわせて速やかに移動できるような訓練はもっと綿密にやりたい。

断水で迷惑をかけたことについては、たいへん申し訳なく思っている。これも今対策を練っている。なぜ断水が起きたかという理由だが、普通は日照りのときに水がほしいからどんどん水を使って水がなくなるということはわかる。しかし、今回の断水は冬に起きた。昔は考えられなかったことだが、冬の水の需要が大きくなった原因のひとつは、雪を溶かすために水道水なり自分の家の井戸水なりを使ったということである。水道水を使えば、すぐに水道の量が減ってしまうことは間違いない。しかし、勝山は井戸水を使っても、水道に影響がある。なぜかという、勝山市の水道水というのは他の都市と違って川水を使っているのではなくて井戸水を使っているからである。地下水が他から吸い上げられると、地下水の量は少なくなって、勝山市の水道水も少なくなる。そういう状況にある。恒久的な対策として、今ひとつ考えているのは、法恩寺山のスキージャンプのふもとに浄土寺川という川が流れていてそこにある浄土寺川ダムから水を取るという計画である。そのために今調査にかかっている。これがきっちりできて水がとれると、勝山の水は安心だという状況になる。そういうことをしている最中である。

何か、答え忘れていないことはないかな？（Iさん：大丈夫です。）確かに何が起きるかわからないから万全の体制を敷いているつもりだが、なかなか市単独では難しいことがある。だから、対策のもうひとつとして、災害支援協定というほかの町との結びつきを考えている。一旦そういう危ない状況になったときには助けてもらえる、すぐに救援物資を送ってくれたりするようなことを進めている。今年の秋までには、岡山県の総社市とこれを結ぶ予定である。今までも近隣の白山市と災害支援協定を結んでいる。さらにそういうつながりを強めていきたいと思っている。

<Jさん>

わたしは勝山市の観光客を増やすにはどうしたらよいかについて考えた。動機としては、勝山に来る観光客は、恐竜博物館とかスキージャンプとか、最近だと平泉寺を訪れる人が多いが、他にも越前大仏とかゆめおーれとか、そういうところに来る観光客が少ないと思うからである。どういうふうに宣伝した方がよいかを考えた。

提案として4つある。ひとつ目は、SNSの力を取り入れるということ。今の世の中はネット社会なので、SNSを利用している人が多い。SNSで観光地をアピールすると、目にとまったりした人は、来て下さると思う。ふたつ目は観光スポットのキャラクターを作り、SNSに載せるといいと思う。チャマゴンが勝山には今いるが、あまり露出されていないし、勝山の人しか知らないと思う。たくさん露出して県外の人たちが知ると、このキャラクター

かわいいなと思って勝山に興味を持ってくれると思う。3つ目は、HPに力を入れるということ。外国人の観光客を呼び寄せるために、HPに日本語・英語・中国語・韓国語の4ヶ国語で紹介文を載せたら、外国人の人も場所についてわかると思う。4つ目は、恐竜博物館に観光客が多いので、パンフレットにはほかの観光地の紹介を載せたりしてみてもどうかと思う。そうすると恐竜博物館に来た観光客の方々がほかの観光地に興味を示して来てくれると思う。露出が大事だと思う。

<市長>

どういうふうにしてアピールするか。

SNSはほんとに大事である。みんなもスマホを持っていて、発信や受信の重要性は十分わかっていると思う。今、市は広報というひとつのセクションを持っていて、そこがSNSやHPに力を入れるようにしている。今後に期待してほしい。そして、見てもらったら、「ここはこうした方がいい」というアイデアがあれば、意見を書いて出してほしい。市の広報あてにSNSで発信してくれればいい。

恐竜博物館のパンフに勝山市のこと全部書いてもらおうといい提案だが、先ほど言ったように、県との連携をもっと密にしないと実現できないし、県は勝山市だけでなくほかの地域、例えば、若狭地方のことも発信したい。勝山にとってメリットがあるのは、恐竜博物館の前にジオターミナルというのができたこと。新しい施設、知っているか？（高校生：ほとんど知らない。）知らない？ちょっと行ってごらん。恐竜博物館のすぐ前に平たい大きな建物ができて、その中で恐竜のお土産を売るところや勝山のほかの観光地を発信するところ、レストラン的なところがあって、すてきな建物である。そこにほかの観光地の案内とかパンフレットを置くので、関連づけて恐竜博物館に来られたお客様が勝山市を楽しんでもらえるようなことがわかる。せっかく作ったんだけど、ジオターミナル行ったことない人？（高校生：ほぼ全員苦笑い）本当？いっぺん行ってごらん。素晴らしい建物である。そして、またみなさんに宣伝してもらいたい。

HPも力を入れる。今作業をしていて新しいHPにもうすぐ出来上がると思う。HPはみなさん見る機会が多いと思う。気がついたことがあったら、HPに発信する場所があるから「これはこうした方がいい」という意見を出してほしい。

<司会>

時間がないが、どうしてもこれだけは市長に最後に言っておきたいということはないか。

<Gさん>

今西日本の災害がある。要望だが、他の地域だと、市でボランティアを派遣する形があるが、勝山市はこれからそういう企画というのはないのか？

<市長>

他市が被害を受けて自力だけでは復興が進まないから、市でボランティアを募集して派遣する。それは決して、やらないこととかやれないことではなくて、そういうことが勝山市としても必要だし、要望もされている。しかし、全てに対してなかなかできない。重要度とか必要度とかは、よく考えてみないといけない。そういった意味で、災害支援協定を結んでいると、その町が被害を受けたときに、その町のためにボランティアを募集しますというやり方はやりやすい。だから、そういう形につなげていきたいと考えている。

今年の冬に大雪が降って勝山市が困ったのは、軽油が届かなかったことである。除雪車は全部、軽油で走ってる。除雪車を持っていても除雪車を動かせないという事態が軽油がないことで起こった。わたしが親しくしている岡山県の総社市の市長にそのことを言ったら、「総社市から軽油を送りましょう」ということになった。岡山県から8時間ぐらいかかって、4000Lのタンク車を向かわせてくれて、ようやく除雪車が動いたという支援をもらっている。今回西日本の大雨によって、総社市は相当の被害を受けた。総社市には化学工場があって、その化学工場が水が作用したためだと思うが、爆発した。爆発に伴う爆風によって周囲1kmの屋根がふっとんだり、穴があいたりした。どんどん雨は降るし、それをビニールシートで覆わなければいけないが、それだけ大量の家屋になると、地域のビニールシートの売っているところは全部空になってしまって、どこも手当てはできない。勝山市で何とか手当てしてくれという要請があったので、勝山市で4000枚をかき集めて、1日かけて車2台で持って行った。そういうようなことから、支援協定を今年の秋ぐらいまでには結ぼうと思っている。そのような中でボランティアを考えていこうと思っている。

<司会>

最後に、市長から若い高校生のみなさんに一言エールを頂きたい。

<市長>

ぼくは思い入れが強いからもう少し話をしたい。まずひとつは、今日みたいな話し合いというのは非常に有意義であるが、やっぱり固さが出てくる。こういうときでしか話せないということで身構えて話をするということもある。もっとフランクに話せるように、ひとつの理想的な案で、うまくいくかどうかは校長先生に聞かなければわからないが、部活の中に、市政、市の政策を考えるような部活を作ってもらい、1カ月に1回でも、市長と話し合いをして、我々としてはみなさん方次世代の人たちが何を思っているかということのを常にキャッチしながら、新しい市の政策の中に入れていくというようなことができれば、非常にすばらしいと思っている。そのようなことに関心があると思うので、部活動の中で自然と市の政策に興味を持ち、かつ、自分たちの考えが市政に反映するというようなことになったらすばらしいとわたしは思っている。そうすれば、自然と話ができて、あまり鯪鉾ばらなくても、ざっくばらんな話し合いの中で、みなさんは話ができるし、わたしたちは楽な気持ちで聞いて、いいアイデアを実現できる。どうだろうか？

(教育長:それは、前の校長先生にもお願いをしてきた。部活までにはできてないけれども、今年度からこういったふるさと勝山創生という形で研究にも取り掛かってきているので、第1歩を踏み出したのではないだろうか。)近づいている?(教育長:はい。)

とにかくね、君たちの人生はまだまだ長い。今始まったばかりだというぐらいのものだ。わたしの年になるまでにはまだまだいろいろなことを経験できるし、失敗もするだろうけど、それも全て、みんなのことだから、何度もチャレンジしてほしい。やらないと、今度は年取ったときに後悔する。何でもやっつけみたい。失敗なんて失敗するのは当然だから。その中から自分が使えるものが出てくる、確かにリスクはあるかもしれないけれど、それもまた大きな力になって跳ね返ってくるとは思う。

<教育長>

去年から市長のリクエストで始まった対話であるが、今年はみなさんそれぞれが、いろんな分野・ジャンルで、またいろんな切り口で勝山市の課題に対するいろんな提案をしていただいて、ほんとに有意義だった。大概のことは勝山市ですでに取り組んでいることだが、いろいろ問題があって、かなり進んでいたり、なかなか進んでいなかったりする。若いみなさんから提案をいただいたことを十分我々も参考にしていって、みなさん自身も一過性のものとして終わらせずに、ふるさと勝山の活性化という視点で、これからも勉強もしていただいて、また、それを切り口にして、広い視野でものごと見られるように、がんばっていただきたい。それと合わせて、いよいよ次の進路に向けて、みなさん方が力を尽くしていく時期に入ってきた。みなさんのがんばりを大いに期待している。本日は誠にありがとうございました。

<市長>

ぜひ、夏休み中に恐竜博物館の前のジオターミナルへ行って楽しんでほしいし、さらに、ここはもっとこういうふうにしたらいんじゃないかという提案があったら出してほしい。みなさん、がんばってください!